

【病態・薬物治療／実務、法規・制度・倫理／実務、実務】

◎指示があるまで開いてはいけません。

注 意 事 項

- 1 試験問題の数は、問286から問345までの60問。
15時30分から18時までの150分以内で解答すること。
- 2 解答方法は次のとおりである。
 - (1) 一般問題（薬学実践問題）の各問題の正答数は、問題文中に指示されている。
問題の選択肢の中から答えを選び、次の例にならって答案用紙に記入すること。
なお、問題文中に指示された正答数と異なる数を解答すると、誤りになるから注意すること。

(例) 問500 次の物質中、常温かつ常圧下で液体のものはどれか。2つ選べ。


- | | | |
|-----------|-----------|--------|
| 1 塩化ナトリウム | 2 プロパン | 3 ベンゼン |
| 4 エタノール | 5 炭酸カルシウム | |

正しい答えは「3」と「4」であるから、答案用紙の

問500 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 のうち 3 と 4 を塗りつぶして
問500 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とすればよい。

- (2) 解答は、○の中全体をHBの鉛筆で濃く塗りつぶすこと。塗りつぶしが薄い場合は、解答したことにならないから注意すること。

悪い解答例  (採点されない)

- (3) 解答を修正する場合は、必ず「消しゴム」で跡が残らないように完全に消すこと。鉛筆の跡が残ったり、「」のような消し方などをした場合は、修正又は解答したことにならないから注意すること。
 - (4) 答案用紙は、折り曲げたり汚したりしないよう、特に注意すること。
- 3 設問中の科学用語そのものやその外国語表示（化合物名、人名、学名など）には誤りはないものとして解答すること。ただし、設問が科学用語そのもの又は外国語の意味の正誤の判断を求めている場合を除く。
 - 4 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」（旧称：薬事法）について、問題文中では「医薬品医療機器等法」（旧称：薬事法）と表記する。
 - 5 問題の内容については質問しないこと。

一般問題（薬学実践問題）【病態・薬物治療／実務】

問 286-287 76歳男性。体重 72 kg。先週より腰痛があり、整形外科を受診し、神経障害性疼痛の診断を受けた。同日保険薬局を訪れ、処方せんをお薬手帳と共に保険薬局の薬剤師に手渡した。手帳には以下の記載があり、約 2 週間前から胃潰瘍治療薬を服用していることを薬剤師は確認した。

(お薬手帳)

年 月 日	処方内容
平成 27 年 2 月 16 日	処方 1) ファモチジン口腔内崩壊錠 10 mg 1 回 1 錠 1 日 1 回 夕食後 30 日分
	処方 2) アズレンスルホン酸 Na・L-グルタミン配合顆粒 1 回 0.5 g 1 日 3 回 毎食後 30 日分
厚生消化器内科医院 厚生次郎	
平成 27 年 2 月 2 日の検査結果 AST 30 IU/L、ALT 25 IU/L、 γ -GTP 20 IU/L、 BUN 50 mg/dL、血清クレアチニン 3.0 mg/dL	

今回の処方せんは以下のとおりであった。

(処方)

プレガバリンカプセル 25 mg 1 回 2 カプセル (1 日 2 カプセル)
1 日 1 回 就寝前 14 日分

問 286 (病態・薬物治療)

腎機能进行评估する上で、糸球体ろ過量 (値または率、GFR) を最も正確に評価できるものはどれか。1 つ選べ。

- 1 血清クレアチニン値
- 2 血中尿素窒素 (BUN) 値
- 3 イヌリンクリアランス値
- 4 尿中 β_2 ミクログロブリン値
- 5 PSP 値 (フェノールスルホンフタレイン試験)

問 287 (実務)

薬剤師が、プレガバリンカプセルの添付文書を確認したところ、クレアチニンクリアランス (mL/min) ≥ 60 の場合の初期投与量「1回 75 mg、1日 2回」、 $\geq 30 - < 60$ の場合の初期投与量「1回 75 mg、1日 1回」、 $\geq 15 - < 30$ の場合の初期投与量「1回 50 mg、1日 1回」と記載されていた。この患者の薬物治療に対する薬剤師の対応として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- 1 お薬手帳の処方1の薬剤とプレガバリンとの併用は禁忌であると考えて、お薬手帳に記載された内科医に疑義照会した。
- 2 お薬手帳の処方2の薬剤とプレガバリンとの併用は禁忌であると考えて、今回の処方医に疑義照会した。
- 3 プレガバリンの投与量が少ないと考えて、今回の処方医に疑義照会した。
- 4 プレガバリンの投与量が少ないと考えて、お薬手帳に記載された内科医に疑義照会した。
- 5 適切な用量の処方であると判断して、調剤を行った。

問 288-289 66 歳男性。高血圧、心房細動とアレルギー性鼻炎のため、内科から下記の薬剤が処方されていた。最近、歩行すると足が痛くなるようになったため、外科を受診したところ、下肢静脈瘤と診断され、1 ヶ月後に手術を行うことになった。

(処方 1)

ジソピラミドリン酸塩徐放錠 150 mg	1 回 1 錠 (1 日 2 錠)
	1 日 2 回 朝夕食後 14 日分

(処方 2)

ワルファリンカリウム錠 1 mg	1 回 2 錠 (1 日 2 錠)
ランソプラゾール口腔内崩壊錠 15 mg	1 回 1 錠 (1 日 1 錠)
ニフェジピン徐放錠 20 mg (24 時間持続)	1 回 1 錠 (1 日 1 錠)
	1 日 1 回 朝食後 14 日分

(処方 3)

レボセチリジン塩酸塩錠 5 mg	1 回 1 錠 (1 日 1 錠)
	1 日 1 回 就寝前 14 日分

問 288 (実務)

外科の担当医より、手術前のワルファリンの休薬期間とその代替薬について外科病棟担当薬剤師に質問があった。以下の組合せのうち、最も適切なのはどれか。

1 つ選べ。

	術前休薬期間	代替薬
1	24 時間	－ ヘパリン
2	24 時間	－ シロスタゾール
3	4 日	－ ヘパリン
4	4 日	－ シロスタゾール
5	14 日	－ ヘパリン
6	14 日	－ シロスタゾール

問 289 (病態・薬物治療)

上記の処方薬剤に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 ジソピラミドリン酸塩徐放錠は、不応期を短縮させ房室ブロックに用いる。
- 2 ワルファリンカリウム錠は、血栓形成を抑制し、脳梗塞の発症を予防する。
- 3 ランソプラゾール口腔内崩壊錠は、併用薬の酸化的分解の抑制のため用いる。
- 4 ニフェジピン徐放錠は、労作時狭心症発作時の治療に用いる。
- 5 レボセチリジン塩酸塩錠は、鼻汁分泌を抑制し、アレルギー性鼻炎に用いる。

問 290-291 74 歳女性。糖尿病を患っており、在宅での治療のためインスリン製剤の自己注射を行っていた。本日、患者より投薬を受けている薬局に電話があり、「昨日から下痢が続き、食事が普段の半分くらいしか摂れないため、主治医に連絡したが、休診で連絡が取れないので、生活面でどのようにしたらよいか。」との質問があった。

問 290 (病態・薬物治療)

質問を受けた時点で、薬剤師が患者に確認すべき事項として優先度の高いものはどれか。1つ選べ。

- 1 前回外来受診時の尿タンパク量
- 2 前回外来受診時の血糖値
- 3 前回外来受診時の HbA1c 値
- 4 直近の血糖自己測定値
- 5 肥満度

問 291 (実務)

薬剤師は、患者宅を訪問して対応することとした。患者の質問に対する現状での回答内容として、適切なのはどれか。2つ選べ。

- 1 食事が摂れなくてもインスリン製剤の使用は続ける。
- 2 下痢をしていない時の食事内容を続ける。
- 3 野菜スープなどミネラル分を含むものを中心に水分摂取を心掛ける。
- 4 炭水化物の摂取は、下痢をしていない時の食事よりも少なくする。

問 292-293 2歳女児。体重10 kg。1日数回の全身強直間代性けいれんを発現し、ミオクローヌスてんかんと診断され、バルプロ酸ナトリウムシロップの投与が開始された。投与開始3ヶ月頃、呼びかけに反応しないなどの意識障害が頻回に見られたため入院加療となり、バルプロ酸の血漿中トラフ濃度と血漿アンモニア窒素値が測定された。

問 292 (実務)

バルプロ酸の血漿中トラフ濃度は60 $\mu\text{g}/\text{mL}$ であった。測定結果の判断として、適切なのはどれか。1つ選べ。

- 1 有効安全濃度域下限の約1/10であった。
- 2 有効安全濃度域下限の約1/5であった。
- 3 有効安全濃度域内にある。
- 4 有効安全濃度域上限の約5倍であった。
- 5 有効安全濃度域上限の約10倍であった。

問 293 (病態・薬物治療)

この患者の血漿アンモニア窒素値は、180 $\mu\text{g}/\text{dL}$ (正常値12 ~ 66 $\mu\text{g}/\text{dL}$)であった。この原因として、最も可能性が高いのはどれか。1つ選べ。

- 1 ミオクローヌス発作にともなう筋障害
- 2 ミオクローヌス発作にともなう低酸素血症
- 3 ミオクローヌス発作にともなう腎血流の低下
- 4 バルプロ酸による肝実質細胞の障害
- 5 バルプロ酸による尿素サイクルの阻害
- 6 バルプロ酸による腸内のウレアーゼの阻害

問 294-295 84 歳女性。女性の家族が近所の保険薬局に処方せんを持参した。最近になって女性の記銘力低下（物忘れ）が気になり、脳神経外科を受診したとのことであった。医師により軽度のアルツハイマー型認知症と診断され、今回が初回投薬となった。その処方内容は次の通りであった。

(処方 1)

ドネペジル塩酸塩錠 5 mg 1 回 1 錠（1 日 1 錠）
1 日 1 回 朝食後 7 日分

(処方 2)

レバミピド錠 100 mg 1 回 1 錠（1 日 3 錠）
1 日 3 回 朝昼夕食後 7 日分

問 294（実務）

薬剤師が、この処方せんを確認して調剤を行う場合、その対応として最も適切なのはどれか。1 つ 選べ。なお、ドネペジル塩酸塩錠は、3 mg、5 mg、10 mg 錠が製品化されている。

- 1 ドネペジル塩酸塩錠は 3 mg から開始するので、医師に疑義照会した。
- 2 ドネペジル塩酸塩錠は 5 mg が維持量なので、問題はないと判断した。
- 3 ドネペジル塩酸塩錠は初回負荷量として 10 mg を投与するので、医師に疑義照会した。
- 4 ドネペジル塩酸塩錠とレバミピド錠の併用は禁忌なので、医師に疑義照会した。
- 5 レバミピド錠は中枢神経系の副作用軽減を目的とすることを説明した。

問 295（病態・薬物治療）

アルツハイマー型認知症の病因・病態として、正しいのはどれか。2 つ 選べ。

- 1 脳内コリン作動性神経系の著しい亢進を認める。
- 2 前頭葉を中心として全般的脳萎縮を認める。
- 3 アミロイド β オリゴマーが、神経細胞周囲に蓄積する。
- 4 大脳皮質を中心に、老人斑と神経原線維変化を認める。
- 5 中核症状として徘徊がある。

問 296-297 今回、病棟薬剤師として、初めて精神科病棟を担当することとなった。そこで、病棟において使用されている薬剤のうち、特に副作用に注意しなければならない薬剤をリストアップすることにした。

問 296 (実務)

以下の薬剤の中で、緊急安全性情報が発出された薬剤の副作用発現を調べるために、血液の検査を行う必要のあるものはどれか。2つ選べ。

- 1 セルトラリン塩酸塩錠
- 2 オランザピン錠
- 3 ミルタザピン錠
- 4 リスペリドン錠
- 5 クエチアピソフマル酸塩錠

問 297 (病態・薬物治療)

この副作用はどれか。1つ選べ。

- 1 肝機能障害
- 2 高血糖
- 3 高カリウム血症
- 4 腎機能障害
- 5 横紋筋融解症

問 298-299 64 歳男性。風邪気味のため近くの薬局を訪れ、薬剤師に一般用医薬品の相談をした。男性が持参したお薬手帳には、以下の内容が記載されており、1 年以上継続して服薬していることがわかった。

(お薬手帳)

年 月 日	処方内容		
平成 27 年 2 月 10 日	タムスロシン塩酸塩カプセル 0.2 mg	1 回 1 カプセル	
	1 日 1 回	朝食後	14 日分
	テプレノンカプセル 50 mg	1 回 1 カプセル	
	1 日 3 回	毎食後	14 日分
	霞が関内科医院 厚生太郎		

問 298 (実務)

男性の症状を聴取したところ、喉がイガイガして痰のからむ咳があるが、鼻水、発熱および頭痛はないとのことであった。薬剤師は、以下の成分を含む一般用医薬品の中から、この男性に適した薬剤を推奨することにした。推奨する一般用医薬品の成分として適切なのはどれか。2つ選べ。

- 1 L-カルボシステイン、ブロムヘキシン塩酸塩
- 2 アセトアミノフェン、エテンザミド
- 3 デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物、リゾチーム塩酸塩
- 4 ジメモルファンリン酸塩、ブロムヘキシン塩酸塩、*d*-クロルフェニラミンマレイン酸塩
- 5 イブプロフェン、アリルイソプロピルアセチル尿素

問 299 (病態・薬物治療)

この患者に対して適切でないと判断された一般用医薬品について、その理由にあてはまるのはどれか。2つ選べ。

- 1 症状を改善させる成分が含まれていない。
- 2 現在使用中の薬物により代謝が阻害され、QT 延長を引き起こす成分が含まれている。
- 3 排尿筋を弛緩させ、排尿困難を悪化させる成分が含まれている。
- 4 腺細胞を増殖させ、排尿困難を悪化させる成分が含まれている。
- 5 尿道括約筋を弛緩させ、排尿困難を悪化させる成分が含まれている。

問 300-301 54歳女性。数年前から関節リウマチを患い、整形外科でメトトレキサートカプセルによる治療を受けていた。患者が処方せんを薬局に持参した際、「これまでの薬だけでは改善しないので、次回から飲み薬に加えて点滴する薬を新しく追加すると医師から言われた。」と薬剤師に話した。

問 300 (病態・薬物治療)

この患者に新しく追加される点滴薬として、考えられるのはどれか。2つ選べ。

- 1 オマリズマブ
- 2 アダリムマブ
- 3 リツキシマブ
- 4 インフリキシマブ
- 5 セツキシマブ

問 301 (実務)

この患者から、「その点滴する薬を使用する前に、検査をして確認することがあると医師に言われたが、何を検査するのか。」と質問された。対応した薬剤師の回答として適切なのはどれか。2つ選べ。

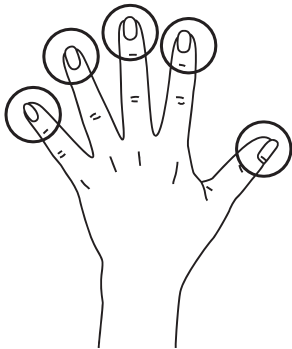
- 1 リウマトイド因子
- 2 胸部レントゲン
- 3 血糖値
- 4 ヘモグロビン値
- 5 ツベルクリン反応

問 302-303 地区の小学校の校長から担当の学校薬剤師に連絡があり、「適切な手洗い方法を児童に指導して欲しい」との依頼があった。

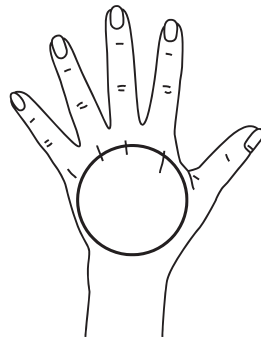
問 302 (実務)

学校薬剤師は小学校を訪れて児童に手洗いの指導を行った。手洗いが不十分になりやすく、指導の優先度が高い部位は以下のどれか。2つ選べ。

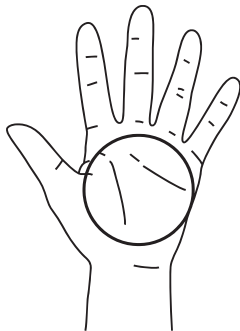
1 指先



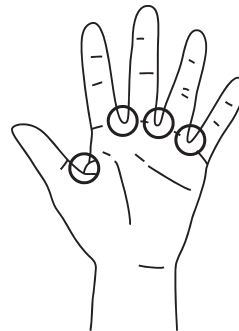
2 手の甲



3 手のひら



4 指の付け根の間



問 303 (病態・薬物治療)

手洗いが、感染防止に有効である可能性の高い感染症はどれか。2つ選べ。

1 C型肝炎

2 デング熱

3 インフルエンザ

4 日本脳炎

5 O-157 感染症

問 304-305 25歳女性。急性骨髄性白血病に対して同種造血幹細胞移植術が施行された。ある時期から38℃以上の発熱が10日間以上続き、肺右下葉の気管支肺胞洗浄液の所見に基づいて侵襲性肺アスペルギルス症と診断された。なお、この診断がなされた時点での患者のクレアチンクリアランス値は20.5 mL/minであった。

問 304 (病態・薬物治療)

肺アスペルギルス症に関する記述として正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 好中球減少症患者で発症しやすい。
- 2 温泉や24時間入浴機器の使用が感染源となりやすい。
- 3 空調機器等を介した院内感染に注意が必要である。
- 4 グラム陰性桿菌の感染症である。
- 5 血中(1,3)- β -D-グルカン濃度が低下する。

問 305 (実務)

この患者に対して、イトラコナゾール注射剤は使用できないと病棟薬剤師は判断した。その理由として、正しいのはどれか。1つ選べ。なお、イトラコナゾール注射剤には、1%イトラコナゾールの他に添加剤としてヒドロキシプロピル- β -シクロデキストリン、プロピレングリコール、塩酸を含む。

- 1 イトラコナゾールがアスペルギルス症に対して無効であるため
- 2 イトラコナゾールが腎排泄型薬物であるため
- 3 イトラコナゾールが肺に移行しないため
- 4 添加物が腎機能を低下させるため
- 5 添加物が造血幹細胞の増殖を抑制するため
- 6 添加物に催奇形性があるため

一般問題（薬学実践問題）【法規・制度・倫理／実務】

問 306-307 32歳女性。皮膚科より尋常性乾癬と診断を受け、以下の薬剤を初めて服用することになった。なお、医師からは治療の説明を受けている。

エトレチナートカプセル 10 mg 1回2カプセル（1日4カプセル）
1日2回 朝夕食後 14日分

問 306（実務）

薬剤師は、処方せん受付時に、患者が医師から受けた説明内容を確認した。この薬剤を使用するにあたり、確認すべき項目のうち、優先度が高いものはどれか。

2つ選べ。

- 1 日光浴
- 2 避妊
- 3 食事の回数
- 4 起床時間
- 5 献血

問 307（法規・制度・倫理）

この患者に関する情報の薬局における取扱いとして適切なのはどれか。2つ選べ。なお、必要な事項は薬歴に記載している。

- 1 患者から薬歴開示の求めがあったが、薬歴は薬局の情報であるという理由で開示を拒否した。
- 2 患者が不慮の事故で亡くなったので、薬歴の情報を家族の同意を得ずに第三者に提供した。
- 3 患者の勤務先から、健康診断の準備のためとして処方内容の問い合わせがあったが、患者の同意がないとの理由で回答を拒否した。
- 4 処方せんに疑義が生じたため、患者の同意を得ずに処方医に疑義照会した。

問 308-309 病院では、医療法の規定に基づき、医療の安全管理体制を確保することになっている。

問 308 (法規・制度・倫理)

病院の管理者が、医療法の規定に基づいて、医薬品に係る安全管理体制の確保のために講じなければならない措置はどれか。2つ選べ。

- 1 従業者に対する研修の実施
- 2 医薬品購入に係る委員会の設置
- 3 情報の収集などの改善方策の実施
- 4 医薬品保管庫の保守点検の実施

問 309 (実務)

医薬品安全管理のために、薬剤師が病棟における薬剤の在庫確認を行った。内科病棟を巡回した際、医療安全の観点から、病棟に在庫することが適切でない成分を含む注射剤として、指摘すべきものはどれか。1つ選べ。

- 1 ペンタゾシン
- 2 ヒドロコルチゾンコハク酸エステルナトリウム
- 3 L-アスパラギン酸カリウム
- 4 リドカイン塩酸塩
- 5 アドレナリン

問 310-311 薬剤師が医師に同行して、糖尿病治療中の在宅患者を訪問した際、患者の家族よりおしりが赤くなっていると訴えがあった。医師が診察したところ、尾骨部周辺から多くの滲出液がでていた。薬剤師は、医師から「褥瘡になっている。まず、外用剤に滲出液を吸収させたい。適切な薬剤はないか。」と相談された。

問 310 (実務)

以下の製剤のうち、薬剤師が提案するものとして、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- 1 白色ワセリン
- 2 親水クリーム (親水軟膏)
- 3 マクロゴール軟膏
- 4 単軟膏
- 5 吸水軟膏

問 311 (法規・制度・倫理)

後日、この患者の処方せんを薬局がファクシミリで受け取った。薬剤師は、再度患者宅を訪問し、以下の業務を行った。適切なのはどれか。2つ選べ。

- 1 薬剤の効果を確かめるために、患者から同意を得た上で採血を行い血糖を測定した。
- 2 患者が服薬しやすいように服薬カレンダーに薬剤をセットした。
- 3 患者宅の残薬が服用可能であったため、薬剤師の判断で処方された数量を変更して調剤した。
- 4 薬剤の効果が不十分と考えられたため、処方医に疑義照会した。
- 5 薬剤の副作用が発現していると考えられたため、薬剤師の判断で服用量の減量を指示した。

問 312-313 73 歳男性。突然、下肢に力が入らなくなり、来院した。検査の結果、ギランバレー症候群と診断され、医師より免疫グロブリン製剤を手配するよう院内の薬剤部に依頼があった。

問 312 (実務)

免疫グロブリン製剤を管理する上で、行わなければならないのはどれか。 2つ 選べ。

- 1 製造番号又は製造記号の記録
- 2 冷凍保管
- 3 献血、非献血に分けて保管
- 4 使用した患者の氏名及び住所の記録
- 5 施錠できる場所に保管

問 313 (法規・制度・倫理)

免疫グロブリン製剤等の血漿分画製剤の国内自給を推進するために必要とされている 国の方針でないのはどれか。 1つ 選べ。

- 1 必要な献血量の確保
- 2 原料血漿の有効利用
- 3 国内製造品の製造費用の補助
- 4 医療関係者に対する意義の啓発
- 5 適正使用の推進

問 314-315 50 歳男性。がんによる疼痛を緩和する目的で、在宅にてオキシコドン塩酸塩水和物徐放錠と非ステロイド性抗炎症薬で治療を行っている。疼痛はコントロールできており、重篤な副作用もみられなかった。昨夜より突発性の疼痛が発現したとの訴えが主治医にあり、今回、オキシコドン塩酸塩水和物散が臨時追加投与されることとなった。

問 314 (実務)

オキシコドン塩酸塩水和物散の服薬指導に関する記述として、誤っているのはどれか。1 つ選べ。

- 1 今まで処方されている鎮痛剤（非ステロイド性抗炎症薬）は、今後も服用してください。
- 2 以前よりも便秘症状がひどくなることがあります。
- 3 食事に関係なく服用しても大丈夫です。
- 4 オキシコドン塩酸塩水和物徐放錠との服用間隔は、2 時間以上あけてください。
- 5 この薬剤の追加投与で、ウトウトすることがあります。

問 315 (法規・制度・倫理)

オキシコドンは麻薬として規制されている。麻薬に関する規制のうち、正しいのはどれか。2 つ選べ。

- 1 薬局の開設者は、特段の申し出がない限り、麻薬小売業者の免許を受けた者とみなされる。
- 2 麻薬小売業者が麻薬処方せんを受け付ける場合は、麻薬施用者の医師免許番号が記載されていることを確認しなければならない。
- 3 麻薬小売業者は、麻薬の滅失等の事故が生じたときは、すみやかに都道府県知事に届け出なければならない。
- 4 麻薬小売業者は、特段の許可なく、別の麻薬小売業者に麻薬を譲渡することができる。
- 5 麻薬小売業者は、年に 1 回、1 年間に譲渡、譲受した麻薬の品名及び数量を都道府県知事に届け出なければならない。

問 316-317 タイル職人が、タイルの汚れを落とす目的で薬局に塩酸を買いに来たので、販売することにした。

問 316 (実務)

塩酸（塩化水素 35%含有）使用時の注意事項の説明として正しいのはどれか。

2つ選べ。

- 1 屋内での使用時は換気を行ってください。
- 2 漂白作用を強める場合、塩素系漂白剤と混ぜて使用してください。
- 3 強い刺激臭があるので吸い込まないように注意してください。
- 4 皮膚に付着した時は、すぐにアルカリ液で中和してください。

問 317 (法規・制度・倫理)

塩酸（塩化水素 35%含有）は毒物劇物取締法により劇物に指定されている。毒物、劇物の取扱いについて正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 薬局開設者は、特段の申し出がない限り、毒物劇物営業者とみなされる。
- 2 毒物又は劇物の販売業の登録には、一般販売業、農業用品目販売業及び特定品目販売業の3種がある。
- 3 毒物劇物営業者は、毒物を貯蔵する場所に、「医薬用外」及び「毒物」の文字を表示しなければならない。
- 4 毒物劇物営業者は、20歳未満の者に、毒物又は劇物を交付してはならない。
- 5 毒物劇物営業者における販売又は授与にかかる書面の保存義務期間は、2年間である。

問 318-319 30 歳女性。薬局に便秘薬を求めて来局した。会話の中からこの女性は授乳中であることがわかった。

問 318 (実務)

一般用医薬品に含有される成分のうち、この女性が、授乳している期間は使用しないか、使用中は授乳を避けるべきものはどれか。1つ選べ。

- 1 日本薬局方センナ末
- 2 ピコスルファートナトリウム水和物
- 3 ビサコジル
- 4 水酸化マグネシウム
- 5 日本薬局方グリセリン

問 319 (法規・制度・倫理)

この女性から、購入した一般用医薬品の外箱に表示された「医薬品副作用被害救済制度」について質問された。この制度の説明として正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 救済の内容としては、医療費、医療手当、障害年金などの給付があります。
- 2 医療用医薬品も対象となりますが、一部、この制度の対象とならないものもあります。
- 3 副作用被害が生じた場合、担当医師が独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)に対して、医療費等の給付の請求を行うことになります。
- 4 製造販売業者の賠償責任が明らかな健康被害が生じた場合でも、この制度による救済が行われることがあります。
- 5 海外で買って来た、外国でのみ製造販売承認を受けた医薬品もこの制度の対象になります。

問 320-321 咳込み状態が改善しないため医療機関を受診した患者が、以下の処方せんを持って保険薬局に来局した。その際、後発医薬品変更について教えてほしいと説明を求められた。ただし、処方1～3は先発医薬品、処方5は後発医薬品名である。

<h2 style="margin: 0;">処方せん</h2> <p style="margin: 0;">(この処方せんは、どの保険薬局でも有効です。)</p>																	
公費負担者番号									保険者番号	3	4	1	3	X	X	X	X
公費負担医療の受給者番号									被保険者証・被保険者手帳の記号・番号	公立東京XXXXXX							
患者	氏名	厚生太郎						保険医療機関の所在地及び名称	東京都千代田区1丁目2-2 霞が関病院								
	生年月日	明・大昭	大平	34年11月26日		男	電話番号	03-XXXX-XXXX									
	区分	被保険者			被扶養者			保険医氏名	内科 労働一郎 (労働)								
	都道府県番号	1	3	点数表番号	4	医療機関コード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
交付年月日	平成27年3月1日						処方せんの使用期限	平成 年 月 日						特に記載のある場合を除き、交付の日を含めて4日以内に保険薬局に提出すること			
処方	変更不可	個々の処方薬について、後発医薬品（ジェネリック医薬品）への変更に差し支えがあると判断した場合には、「変更不可」欄に「✓」又は「×」を記載し、「保険医署名」欄に署名又は記名・押印すること。															
	✓	(処方1)	オノンカプセル 112.5 mg						1回2カプセル（1日4カプセル） 1日2回 朝夕食後 10日分								
		(処方2)	ムコダイン錠 500 mg						1回1錠（1日3錠） 1日3回 朝昼夕食後 10日分								
		(処方3)	アスペリン錠 20 mg						1回1錠（1日3錠） 1日3回 朝昼夕食後 10日分								
		(処方4) [般]	アンブロキシソール塩酸塩錠 15 mg						1回1錠（1日3錠） 1日3回 朝昼夕食後 10日分								
		(処方5)	セループカプセル 50 mg						1回1カプセル（1日3カプセル） 1日3回 朝昼夕食後 10日分 (以下余白)								
備考	保険医署名	「変更不可」欄に「✓」又は「×」を記載した場合は、署名又は記名・押印すること 労働一郎 (労働)															
調剤済年月日							公費負担者番号										
保険薬局の所在地及び名称 保険薬剤師名							公費負担医療の受給者番号										

問 320 (実務)

後発医薬品への変更についての記述のうち、適切でないのはどれか。1つ選べ。

- 1 処方1について、後発医薬品に変更できないのでそのまま調剤する。
- 2 処方2について、後発医薬品の説明を行ったうえで患者が希望した場合は、後発医薬品を調剤する。
- 3 処方3について、後発医薬品の説明をするが、患者が先発医薬品を希望する場合はそのまま調剤する。
- 4 処方4について、一般名処方なので先発医薬品で調剤する。
- 5 処方5について、在庫がないので、患者の了解が得られれば、医師に確認しないで同一金額以下で、同一成分の別銘柄の後発医薬品を調剤する。

問 321 (法規・制度・倫理)

この患者は、後発医薬品への切り替えを希望した。当該患者への後発医薬品に関する説明のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 後発医薬品は、先発医薬品の再評価が終了した後に市場で提供されます。
- 2 後発医薬品は、先発医薬品と同等の臨床効果、作用が得られる医薬品です。
- 3 後発医薬品は、先発医薬品と比べて多くの場合、価格が安くなります。
- 4 後発医薬品に含まれる添加剤は、どれも先発医薬品と同一です。
- 5 日本は欧米諸国に比べて、後発医薬品の使用割合が高い状況です。

問 322-323 30 歳女性。片頭痛のためリザトリプタン安息香酸塩錠（以下「薬剤 1」とする）が処方され、保険薬局を訪れた。この女性の姉（32 歳）も昨年より片頭痛のため、当薬局からクリアミン配合錠 A 1.0（以下「薬剤 2」とする）の投薬を受けている。今日は付き添いで一緒に来局した。

注) 薬剤 2：エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン配合錠

問 322（実務）

この姉妹から、これらの薬について説明を求められた。薬剤師が行った説明の中で適切でないのはどれか。1つ選べ。

- 1 薬剤 1 は、定期的に服用して下さい。
- 2 薬剤 1 は、服用しても痛みが治まらない時は、2 時間以上あければ追加して服用できます。
- 3 薬剤 2 は、片頭痛の予兆や前兆が現れた時にも服用してください。
- 4 薬剤 2 は、妊婦又は妊娠している可能性のある女性は服用できません。
- 5 姉妹間での薬のやり取りはしないで下さい。

問 323 (法規・制度・倫理)

これらの2つの薬剤の効果と費用はいずれも異なっている。薬剤師は、エルゴタミンを含む配合剤に対するリザトリプタン安息香酸塩錠の費用対効果を評価した資料を調べた。この資料では、質調整生存年 (QALY) を用いた効果の期待値と費用の期待値から増分費用効果比が算出されていた。この薬剤経済分析の手法として最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| 1 費用最小化分析 | 2 費用効果分析 | 3 費用効用分析 |
| 4 費用便益分析 | 5 費用感度分析 | |

問 324-325 80歳女性の家族より「一昨日、処方せんにより調剤してもらった薬を服薬してから母親の体のふらつきがひどくなり、今朝転倒した。」と薬局に連絡があった。調剤した薬剤師が確認したところ、薬量を誤って多く調剤した可能性が疑われた。

問 324 (実務)

この時点での当該保険薬局における対応として、適切でないのはどれか。1つ選べ。

- 1 本人の状況・状態を確認する。
- 2 家族を安心させるため、補償を約束する旨を伝える。
- 3 状況を管理薬剤師・開設者に報告する。
- 4 確認した事実関係を隠さないで患者側に説明する。
- 5 他の患者への事象拡大を防止するための策を講じる。

問 325 (法規・制度・倫理)

処方された薬剤の用量を誤って調剤した場合、医療事故につながる可能性がある。下図は、公益財団法人日本医療機能評価機構で収集した医療機関におけるヒヤリ・ハット事例の報告件数に基づいて作成されている。図の**ア～オ**に入る語句として適切なのはどれか。1つ選べ。

なお、この報告件数には以下の①～③に該当する事例が含まれている。

- ① 医療に誤りがあったが、患者に実施される前に発見された事例。
- ② 誤った医療が実施されたが、患者への影響が認められなかった事例又は軽微な処置・治療を要した事例。
- ③ 誤った医療が実施されたが、患者への影響が不明な事例。

データの出所：公益財団法人日本医療機能評価機構、医療事故情報収集事業平成24年年報

(注) 当事者とは、当該事象に関係したと医療機関が判断した者であり、複数回答が可能である。

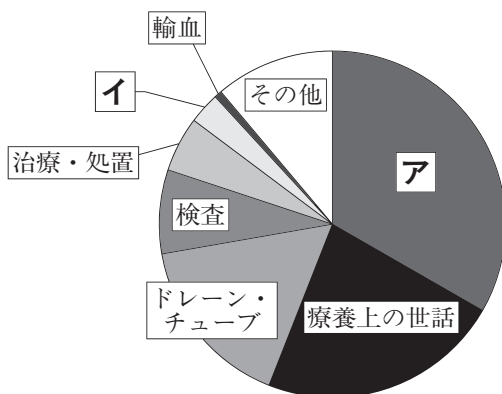


図1 報告項目の内訳

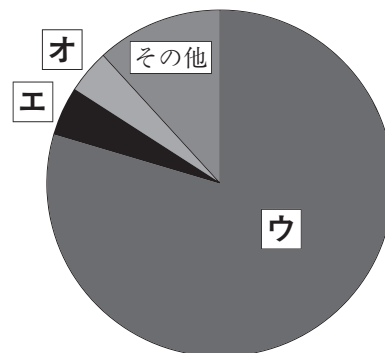


図2 当事者職種の内訳 (注)

	ア	イ	ウ	エ	オ
1	薬剤	医療機器等	医師	看護師	薬剤師
2	薬剤	医療機器等	看護師	薬剤師	医師
3	薬剤	医療機器等	薬剤師	医師	看護師
4	医療機器等	薬剤	医師	看護師	薬剤師
5	医療機器等	薬剤	看護師	薬剤師	医師
6	医療機器等	薬剤	薬剤師	医師	看護師

一般問題（薬学実践問題）【実務】

問 326 医療スタッフの協働・連携によるチーム医療が推進されている。病院内のチーム医療の中で、薬剤師が実施することが推奨されている業務として適切でないのはどれか。1つ選べ。

- 1 薬物療法を受けている患者への薬学的管理を実施する。
- 2 薬物の血中濃度に基づき投与量の変更を提案する。
- 3 医師の指示のもと動脈留置カテーテルから薬剤を投与する。
- 4 副作用のモニタリングに基づき薬剤の変更を提案する。
- 5 医師等と事前に作成・合意されたプロトコールに基づき薬剤を変更する。

問 327 病院内において薬剤師が行う医薬品の管理に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 医薬品管理の主な目的は、品質の保証された医薬品を安定供給することである。
- 2 ロット番号の管理は、健康被害拡大防止を目的とした医薬品の回収時に役立つ。
- 3 一定数量を病棟に配置し、使用分を補充する方法を発注点方式という。
- 4 経過措置品目に指定された医薬品は、告示された翌日から保険医療で使うことができない。

問 328 65歳女性。体重 50 kg。絶飲絶食であり、維持期に用いる 1日当たりの高カロリー輸液の組成を考えることになった。この患者の 1日当たりに必要な総エネルギー量は、予測式から基礎代謝量を求め、活動因子および障害因子を考慮して算出したところ、1400 kcalであった。高カロリー輸液組成において、非タンパクカロリー／窒素比 (NPC/N) が、150 になるようにしたい。10%アミノ酸輸液の投与量として最も近いものはどれか。1つ選べ。

ただし、タンパク質には窒素が 16%含まれるものとする。また、20%脂肪乳剤 250 mL (500 kcal) 1本を末梢静脈より投与する予定である。

- 1 50 mL 2 100 mL 3 300 mL 4 400 mL 5 500 mL

問 329 20%ブドウ糖液を調製して、末梢静脈から点滴投与する注射処方せんが発行された。薬剤師は高浸透圧による静脈炎が発生する可能性がある判断し、処方医に疑義照会した。20%ブドウ糖液の血漿に対する浸透圧比として最も近いのはどれか。1つ選べ。なお、血漿の浸透圧を 290 mOsm/L とし、ブドウ糖の分子量は 180 とする。

- 1 2.1 2 2.6 3 3.2 4 3.8 5 4.2

問 330 非小細胞肺癌患者への処方 1～3 に関する薬剤師の対応として適切でないのはどれか。2つ選べ。

(処方 1)

ドセタキセル注 100 mg
5%ブドウ糖注射液 250 mL
60 分間で点滴静注

(処方 2)

生理食塩液 500 mL
90 分間で点滴静注

(処方 3)

シスプラチン注 125 mg
5%ブドウ糖注射液 500 mL
120 分間で点滴静注

- 1 体重と年齢から投与量を計算して確認した。
- 2 ドセタキセルは希釈せずに急速静注投与するよう疑義照会した。
- 3 シスプラチンは生理食塩液で希釈するよう疑義照会した。
- 4 処方監査時に血液学的検査値を確認した。
- 5 処方監査時に体温を確認した。

問 331 院内の安全対策研修会で、下記の事例をもとに医療事故の対応を多職種で議論した。

事例

60歳女性。関節リウマチの診断で今回より初めてメトトレキサートカプセル 2 mg 3 カプセルが4週間分処方された。本来、週1回服用のところ、連日服用で28日分調剤された。服用開始18日目に倦怠感、食欲不振、歯肉出血が出現したため自己判断で服用を中止した。その3日後に外来受診し、検査の結果、口腔粘膜障害、胃腸障害、肝機能障害、骨髄抑制が認められたため緊急入院となった。

議論の中で、この患者への処置について薬剤師が意見を求められた。この薬剤の特徴から考えて効果的なのはどれか。2つ選べ。

- 1 ホリナートカルシウムの投与
- 2 ビタミンK製剤の投与
- 3 薬用炭の投与
- 4 炭酸水素ナトリウム注射薬の投与

問 332 6歳女児。高熱とひどい咳のため受診し、マイコプラズマ肺炎と診断され、以下の薬剤が処方された。

(処方)

クラリスロマイシンシロップ用10% 1回1.5g (1日3g)

1日2回 朝夕食後 7日分

服用開始3日目に、オレンジジュースに混ぜて服用させたところ、子供が苦くて飲めないと連絡があった。苦みが増したのはオレンジジュースのどのような要因によるものか。1つ選べ。

- | | | |
|-----------|------------|-------------|
| 1 酸性 | 2 アルカリ性 | 3 フラボノイドを含有 |
| 4 カリウムを含有 | 5 ナトリウムを含有 | |

問 333 64 歳女性。本日、以下に示す皮膚科の処方せんを持って保険薬局を訪れた。

(処方)

ヒルドイドソフト軟膏 0.3%^(注) 100 g

1 日 3 ～ 4 回 手足のカサカサ部に塗布

(注：ヘパリン類似物質を主成分とする外用剤)

服薬指導時に、抗がん剤を服用していることがわかった。その抗がん剤を服用し始めてから手のひらと足の裏が赤くなり痛みが生じるとともに、かかとかサカサするようになったと訴えた。見せてもらおうと色素沈着も認められた。皮膚科の医師からは抗がん剤の副作用を抑えるための軟膏であると言われている。この副作用を引き起こす薬物として最も想定されるのはどれか。1つ選べ。

- 1 イマチニブ
- 2 ソラフェニブ
- 3 ゲフィチニブ
- 4 ダサチニブ
- 5 ニロチニブ

問 334 65 歳男性。体重 72 kg。非弁膜症性心房細動との診断で下記の処方薬を服用していた。数日前から、めまい、ふらつき、冷汗、手の震え、軽度の意識障害にて昨日入院となった。本日病室を訪問した薬剤師は、下記の処方薬を日頃欠かさず服用していたことを付添いの家族から聴取した。また、カルテから入院時検査結果が血清クレアチニン値は 2.0 mg/dL、BUN は 39 mg/dL、空腹時血糖は 40 mg/dL であることを確認した。

シベンゾリンコハク酸塩錠 100 mg	1 回 1 錠 (1 日 3 錠)
ベラパミル塩酸塩錠 40 mg	1 回 1 錠 (1 日 3 錠)
ニコランジル錠 5 mg	1 回 1 錠 (1 日 3 錠) 1 日 3 回 朝昼夕食後
ダビガトランエテキシラートメタンズルホン酸塩カプセル 110 mg	1 回 1 カプセル (1 日 2 カプセル)
ニフェジピン徐放錠 10 mg (12 時間持続)	1 回 1 錠 (1 日 2 錠) 1 日 2 回 朝夕食後

担当の薬剤師は、入院時の不快症状と検査値から薬の副作用を疑い、医師に薬剤の変更を提案しようと考えた。該当する薬剤はどれか。1 つ選べ。

- 1 シベンゾリンコハク酸塩錠
- 2 ベラパミル塩酸塩錠
- 3 ニコランジル錠
- 4 ダビガトランエテキシラートメタンズルホン酸塩カプセル
- 5 ニフェジピン徐放錠

問 335 漢方処方とその主な効能・効果の組み合わせのうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 半夏厚朴湯 — 下痢、腸閉塞予防
- 2 小青竜湯 — 気管支喘息、鼻炎
- 3 六君子湯 — 花粉症、アトピー性皮膚炎
- 4 抑肝散 — 神経症、不眠症
- 5 大建中湯 — 腰痛、筋肉痛

問 336 市立病院に勤務する新人薬剤師が、はじめて病棟で患者を担当することになった。

59歳男性。前立腺がんが原発であったが骨に転移し激しい痛みを伴っており、がんに対する化学療法と痛みに対する緩和ケアが必要とされる。そこで、この薬剤師は患者への介入を考えるため、患者のカルテを閲覧した。薬剤師の行動として通常許容されるのはどれか。1つ選べ。

- 1 患者氏名をイニシャル化し、私的所有のUSBメモリに患者情報を記録し、自宅に持ち帰った。
- 2 患者の氏名と使用医薬品名をノートに記録し、製薬企業の学術担当者に見せて相談した。
- 3 他院の友人に依頼して、類似症例のカルテのコピーを入手し、参考にした。
- 4 大学の図書館で調べものをするので、患者個人情報を持ち出した。
- 5 薬剤部内の症例検討会で発表するために、カルテに基づく資料を匿名化したうえで作成した。

問 337 3歳男児。急性中耳炎に対し、以下の薬剤が処方された。この事例に対応した薬剤情報提供として適切でないのはどれか。2つ選べ。

(処方)

デキサメタゾンエリキシル 0.01% 1回 1.33 mL (1日 4 mL)

単シロップ 1回 0.67 mL (1日 2 mL)

以上、混合して1剤とする。 1日 3回 朝昼夕食後 4日分

- 1 1回量は、2 mLであることを伝えた。
- 2 感染を防止する作用があることを伝えた。
- 3 消化管障害が現れることがあることを伝えた。
- 4 説明する時間がなかったので添付文書を渡した。
- 5 エタノールが含まれることを伝えた。

問 338 病棟で抽出された以下の問題点について、薬剤師の対応・判断として適切と考えられるのはどれか。2つ選べ。

- 1 アドヒアランス不良の患者に対し、薬剤情報提供書と薬剤実物を用いて指導を行った。
- 2 患者の薬識が低かったので服用薬に対する理解度を高めるため、一包化調剤で対応した。
- 3 高血圧患者より2種類の内服薬の管理がうまくできないとの申し出があり、医薬品情報を調査して配合剤への変更が可能かを検討した。
- 4 注射用セフェム系抗生物質投与時の患者観察に関する看護師の相談に対して、初回投与時に問題が無かったので同一薬剤2回目以降の観察は不要と回答した。

問 339 薬局製造販売医薬品（薬局製剤）の製造・販売に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 薬局における設備・器具で製造し、その薬局において直接消費者に販売又は授与する医薬品である。
- 2 薬局製剤は、厚生労働大臣の承認・許可を受けた薬局でしか製造・販売できない。
- 3 薬局製剤は、漢方薬を主体とした漢方製剤は含まれない。
- 4 薬局製剤は薬局独自の品目を、独自の製法によって製造することが可能である。
- 5 薬局製剤の製造販売にあたっては添付文書を作成する。

問 340 卸業者から納品された医薬品の外箱側面に下記の記載があった。この医薬品の検収・保管に関する記述のうち誤っているのはどれか。2つ選べ。

成分・含量	1錠中 日局ジアゼパム 5 mg	使用期限	2016.3
容量	100錠 (10錠 × 10 PTP)		
規制区分	向精神薬、処方せん医薬品	製造番号	4193
貯法	室温保存		

- 1 外箱に破損がないか、開封されていないか確認した。
- 2 納品伝票の内容が外箱に書かれた記載と一致するか確認した。
- 3 第二種向精神薬の譲受簿に記録した。
- 4 盗難防止のため、麻薬金庫に保管した。
- 5 保管場所の温度は 25℃ に設定した。

問 341 近隣の高齢者とその家族から熱中症について薬局に質問があった。薬剤師の説明として適切でないのはどれか。1つ選べ。

- 1 室内でも温度や湿度が高いと発症することがあります。
- 2 初期症状としては、めまいや立ちくらみが現れることがあります。
- 3 意識障害が出ている場合、その場所で意識が戻るまで安静にさせて下さい。
- 4 のどが渇かなくても、こまめに水分摂取と適度の塩分補給が必要です。
- 5 高齢者は、汗をかきにくく、発症しやすくなるので注意が必要です。

問 342 夏のある日曜日の午前中、薬局に男性から電話があった。その内容は、「早朝からひどい水様便で何度もトイレに行く状態だ。熱はない。昨夜寝る前に冷たいビールを飲んだ。これからそちらに行く。」とのことであった。この男性に薦める一般用医薬品の成分として適切なのはどれか。2つ選べ。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 タンニン酸アルブミン | 2 ピレンゼピン塩酸塩水和物 |
| 3 スクラルファート水和物 | 4 ロペラミド塩酸塩 |
| 5 大黃 | |

問 343 次の5名の健康診断の情報から、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）として特定健康診査・特定健康指導を受けるように強く指導すべき対象者の番号はどれか。1つ選べ。ただし、対象者はすべて喫煙歴はないものとする。

対象者番号	1	2	3	4	5
年齢（歳）	32	45	57	62	28
性別	男性	男性	女性	女性	女性
腹囲（へそ周り）(cm)	78	88	87	92	101
トリグリセリド (mg/dL)	161	140	165	124	150
収縮期血圧 (mmHg)	137	124	108	140	114
空腹時血糖値 (mg/dL)	95	132	88	126	130

問 344 65歳男性。身長 178 cm、体重 75 kg。食道がんの術前・術後の栄養管理に栄養サポートチーム (NST) が関与することになった。ただし、本患者の食道に通過障害はあるものの、水分摂取は可能で食道以外に障害はなかった。術後においても、水分摂取は可能であった。この患者に対する栄養療法に関する記述のうち、適切なのはどれか。2つ選べ。

- 1 術前の栄養管理は、経腸栄養療法は実施できない。
- 2 術後の栄養管理には、経腸栄養療法が適している。
- 3 末梢静脈栄養療法では、1日あたりに必要となる糖質量を投与することができない。
- 4 経腸栄養剤としては、半消化態栄養剤よりも成分栄養剤の方が適している。
- 5 経腸栄養療法よりも、中心静脈栄養療法の方が感染性リスクは少ない。

問 345 ある日、以下の処方せんを持った5歳男児の両親が保険薬局を訪れた。この薬局には、ドライシロップの在庫が全くなく、医師に疑義照会してオセルタミビルリン酸塩カプセル 75 mg を脱カプセルして調剤することになった。

(処方)

オセルタミビルリン酸塩ドライシロップ 3% 1回 1.3 g (1日 2.6 g)
1日 2回 朝夕食後 5日分

この処方を全量調剤するのに必要なオセルタミビルリン酸塩カプセルの最少数はいくつか。1つ選べ。

- 1 4カプセル
- 2 5カプセル
- 3 6カプセル
- 4 7カプセル
- 5 8カプセル